

2人のノーベル賞 知的好奇心、常識にとらわれない 息の長い研究

基礎研究支援の強化の転機に

生理学・医学賞の坂口志文・大阪大学特任教授は、「自己免疫疾患」となる現象に知的好奇心を持ち、20年かかって「制御性T細胞」の発見に至りました。化学賞の北川進・京

都大学特別教授はねらった物質を内部に閉じ込められる「金属有機構造体」開発の功績。論文発表直後は「常識に反する材料」と叩かれたと言います。2人の受賞の教訓は、

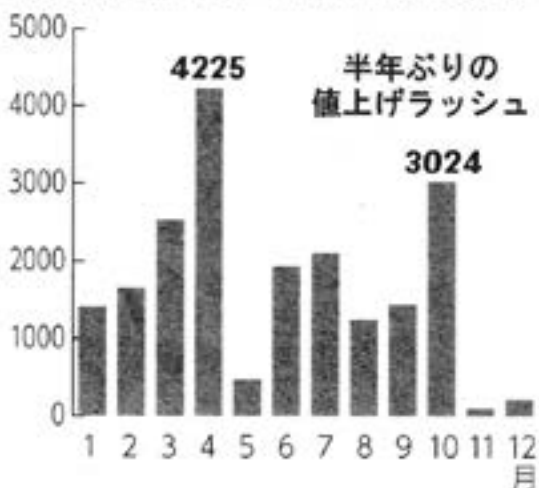
知的好奇心にもとづく常識にとらわれない息の長い研究があつてこそ、革新的な成果が生まれることです。政府は国立大学交付金などの基盤的経費を削減し、任期付き研究

者が増え、短期的な成果主義がまん延しています。受賞した両氏は基礎研究への支援強化を訴えました。今度こそ基



盤的経費の増額に轉換し、基礎研究を育む環境を回復すべきです。

飲食料品の値上げ品目数の推移



帝国データバンク調査結果(9月30日発表)から

緊急アピール 学費の値上げ連鎖を食い止める ために政府は責任を果たせ

2025年10月10日 日本共産党(要旨)

「学費の値上げ連鎖を食い止めるために政府は責任を果たせ」――学が今春から2割の値上げを強行。この秋、埼玉大学、名古屋工業大学、地方国立大学が相次いで授業料の値上げを発表する「異常事態」

産党が発表しました。アピールは、東京大学が今春から2割の値上げを強行。この秋、埼玉大学、名古屋工業大学、地方国立大学が相次いで授業料の値上げを発表する「異常事態」

だと指摘。

さらに学費が値上げされれば、学生生活は崩壊し、日本の大学は土台から成り立たなくなり、警鐘をならしています。

緊急措置として①値上げの回避のための緊急の予算措置と大学予算の拡充②国立大学の学費値上げの根拠となる文部科学省令の撤廃③政府の責任で入学金の二重払いの解消の三点を要求しています。

職場から

高市早苗氏が自民党総裁に。決選投票で小泉進次郎農水相を破って当選した「裏金問題」に関与した秋生田光一氏を幹事長代行に就任させた「ひどすぎる」

もひどい」 × × 公明党が自公連立から離脱。「26年間、自民党と悪政を続けてきた」「平和・福祉の党の看板を掲げながら、安保法制に賛成、大軍拡にも同調した」「クリーンな政治といいながら、選挙では自民党の裏金議員も推薦した」 × × 大阪・関西万博閉幕。「収支が黒字と言うが、運営費だけの話。整備費には国費を注ぎ込んだところか古い景色へ逆戻りだ」「馬車馬発言



ラブルで帰宅出来ない問題もあった「カジノと一体で進められたことが問題だ」

でいる」「最大の建設費2300億円は国、府、市が3分の1ずつ負担している」「メタンガス発生、ユスリカ、レジオネラ菌、メトロのト

× × 東急田園都市線脱線事故。「24時間の運転見合わせにより、1107本が運休し、約65万2000人が影響を受けた」「東急電鉄は10年前の信号システムに設計ミスがあったという」 × × サッカー、ブラジルから歴史的勝利。「前半2失点したが後半3点取って逆転勝利した」「ブラジルの国営通信

【ついでに】

裏金問題不問にして悪質な議論

維新の議員定数削減
断じて許せない

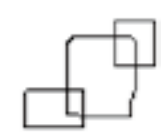
維新の吉村代表は17日の自民党との連立政権に向けた協議で突然、国会議員定数削減は連立の絶対条件だと主張しました。同氏はとくに比例代表の定数削減を主張しています。議員定数削減、とりわけ

多様な民意を反映する比例代表の削減は少数政党を議会から締め出すもので、今日の多様化している状況にも逆行します。

選挙制度のあり方は民主主義の土台であり、すべての政党で協議す

べきものです。定数削減を臨時国会で数の多数で押し通すことは議会制民主主義のイロハをわきまえない暴論です。

維新の主張は、企業・団体献金、裏金問題を不問にして議員定数の問題にすり替えるもので、自民党と一緒にするための悪質な議論です。



プラ接触 小児に悪影響

米の大学など 緊急呼びかけ

米ニューヨーク大学などの研究グループは、妊婦や胎児、子どもが、プラスチックの柔軟性用のフタル酸エステル、

剛性用のビスフェノールA、耐熱性と撥水性用の有機フッ素化合物(PFAS)にさらされた場合の影響を調べた数百の最新の研究を検討。これらの化学物質が心臓病や肥満、不妊、ぜんそくなど、広範囲にわたる長期的な健康問題と関連していることが判明し、英医学誌『ラ

ンセット・チャイルド・アンド・アドレセント・ヘルス』(9/21付)に発表しました。

同グループは子どもたちが健康で長生きできるようプラスチックへの接触を減らす必要があると緊急行動を呼びかけました。

【職場からの続き】
は『驚きの結果』と報じた」

「ドジャースが17日地区シリーズを勝ち抜いた」大谷が7回まで投げ、3本のホームランを打った「佐々木投手もしつかり締めた」

「涼しくなり、ハイキングや登山に行きたく



なる」「紅葉はまだだが、日光はもう一部紅葉しているとテレビで紹介していた」

各地でクマの被害。「岩手県では露天風呂の清掃をしていた男性が被害にあった」「今年度は7人が犠牲になって、過去最多だ」

「キンモクセイがかわいいい花を咲かせ、いい香りを放っている」

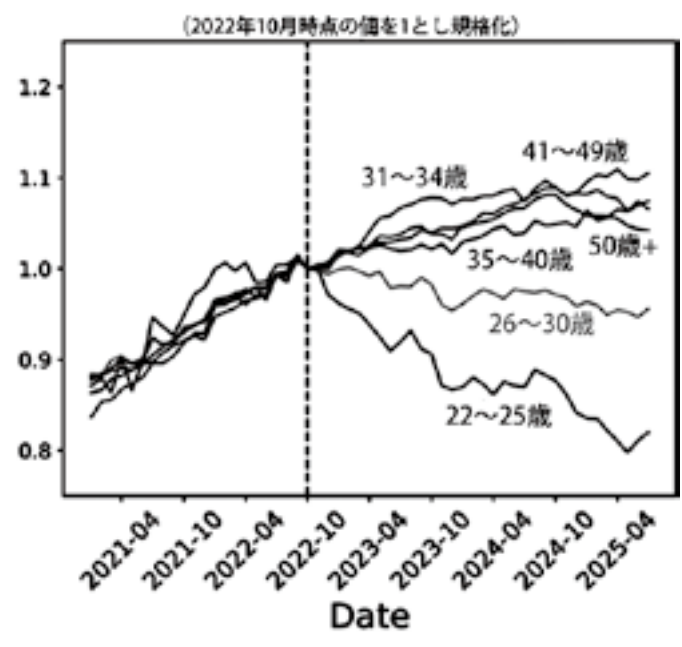
海外短信

アメリカ
AIと若手技術者の雇用

米スタンフォード大学のエリック・ブリニョルフソン教授ら3名の研究者は、米国最大の人事・給与アウト

ソーシング会社ADPが提供する数百万人分の匿名データをもとに「生成AIが雇用に及ぼす影響」を分析しました。

AIによる影響は職種によって異なり、「ソフトウェア開発」「受付」「翻訳者」などに影響が大きかった。たとえば「ソフトウェア開発」では、ChatGPTの登場によって約3年で若手技術者の雇用が大きく減りました(図)。



赤狩りに抗した運動復活
550人連名の声明
ハリウッド俳優ら「沈黙拒否する」

トランプ政権の弾圧と闘う

トランプ米政権が自らに批判的な政治運動や報道機関、学術機関、芸能関係者などへ圧力を強めるなか、ハリウッド関係者が「沈黙を拒否する」と声を上げています。米俳優のジェーン・ Фонда氏

ら550人は1日、連名の声明を発表し、「90年代の「マッカーシズム(赤狩り)」に抗議した運動「修正第1条委員会」を復活させ、政権批判の封じ込めと闘うと表明しました。

声明は、「マッカーシーの時代は、政治的立場を超えた国民が最終的に団結し、弾圧勢力に対して憲法の原則順守を求めて立ち上がったことで最期を迎えた」と指摘。「今度はわれわれが憲法上の権利を守るためにともに立ち上がる番だ」と賛同を呼び掛けました。